

# 新明鏡橋

トラス式張出し工法で架設された扁平アーチ橋



施主	山形県
施工場所	山形県西村山郡朝日町
完成年	2005年
橋長	115.0m
形式	上路式RC固定アーチ橋
全幅	17.3m
アーチスパン	103.5m
アーチライズ	11.0m
スパンライズ比	9.4
架設工法	トラス式張出し架設工法

本橋は、国道287号和合バイパス整備の一環として、最上川に架けられるRC固定アーチ橋である。スパンライズ比が9.4と扁平なアーチ構造である。

補剛桁は桁高2.0mの2室箱桁断面で、アーチリブは部材厚1.5mの円筒型枠を用いた中空断面である。補剛桁とアーチリブはクラウン部で一体構造となっている。

アーチリブ・鉛直材・補剛桁を特殊架設作業車により順次施工し、斜吊りPC鋼材を設置してトラスを構成しながら張出し架設する工法で施工された。扁平であることより斜材の角度を確保するために、2箇所に仮の鉛直材が設置された。

施工時には、張出し架設に伴う転倒モーメントに対応するため橋台後方にアンカー構造体を設け、バックステーを介して補剛桁と結合して架設された。

この橋は、この地点に架けられた六代目になる橋と言われている。

